



池田町長

町長 行政報告

地域づくり活動

本年は幸いにも台風等による大きな災害もない中、葉山運動公園総合センター・郷地区集落活動拠点施設・大野統合簡易水道施設・林道柿の木谷線災害復旧・町道船野白河瀬線をはじめとするインフラ整備を実施。

平成28年度予算編成方針

普通交付税は28年度に1億円、32年度には33億円の減額。効果的な行財政運営を推進し「第Ⅱ期津野町まちづくり計画」を基に、津野町まち・ひと・しごと創生総合戦略の3本の基本目標「地域における雇用創出」「人の流れをつくる」「安全な暮らしと地域の連携」を重点施策として予算を編成する。

貝ノ川地区の「棚田キャンドルまつり」郷地区の「長沢ウォーキング」「郷で合コン」白石地区の「新荘川清流保全活動」新たに姫野々地区では「姫野々まつり」が開催された。交流イベントを通じての活性化が「奥四万十博」の推進軸となることに期待。

地方創生総合戦略策定

「津野町まち・ひと・しごと創生推進本部」を組織し、12月1日に計画策定に至る。合計特殊出生率の上昇や若者の転出超過の抑制・UIJターンの促進に取り組み、津野町人口ビジョンは二〇六〇年に3千698人を目指す。

総合戦略に基づき個別施策等を明記したアクションプランを盛り込む改定を平成28年3月に予定。

マイナンバーの配達状況

社会保障や納税に関する情報を一元的に管理する共通番号制度（マイナンバー制度）が平成27年10月5日に施行され、平成28年1月から運用が開始される。町内では11月12日から配達が開始され、11月末までに町に返戻された通知カード入り封筒は199通。本人に確実に届ける方法を取っていく。

天狗荘・ふるさとセンター

天狗荘は林道東津野城川線の通行止めがあり、4月から7月は昨年比で約600万円減、特に7月は天候不順と相まって団体客はほぼゼロに近い状態で500万円に近い売り上げ減であった。9月のシルバークロウには通行可能になり昨年並みに回復している。9月から地域おこし協力

隊1名を採用。天狗荘に常駐し、新たな目線で冬場や来年度の「奥四万十博」期間中の集客を目指している。ふるさとセンターは食堂のリニューアルやメニュー変更の効果もあり風車の駅の食堂部門では昨年比123・6%、全体でも105%、道の駅は全体で103・6%、満天の星アンテナショップは112・4%、十津店は96%、瀬戸店は週4日営業にしたため68・2%。直販全体の売り上げは101・5%で若干の増加となっている。

プレミアム商品券

総発行額8千750万円に対し、各店舗換金済額は11月13日現在で7千884万1千円となっており、残り865万9千円が換金されていない。12月31日が使用期限のため周知を図っている。

産業祭・健康ふくし展

11月22日に開催。町内外から1千500名が来場。農産物の品評会には昨年の出品

数を大幅に上回る353点があった。

産業祭では津野山古式神楽・ミニコンサート・丸太切り競争・お楽しみ抽選会・健康ふくし展では各コーナー展示や試食・相談など多くの人でにぎわった。

本年は、訓子府町から菊池町長・上原議会議長ら9名が来町し、農家婦人部の野菜倶楽部5名による「訓子府たれカツ丼」特産のじやがいもを使った「スノーマーチナゲット」の販売があり、瞬く間に完売した。

歴史イベント

10月4日に津野町合併10周年記念及び津野町文化的景観ガイダンス施設「吉村虎太郎邸」の落成記念事業として、歴史家の加来耕三氏を講師として招き「天忠組の吉村虎太郎と土佐の四傑」と題して歴史講演会を開催、200名が参加した。

3月に完成した吉村虎太郎邸が「第13回高知県木の文化賞」を受賞。11月11日に高知県庁で授賞式が行わ